

小学校のはじまり

新年度が始まり、今年も新一年生が希望を胸に小学校へ入学します。

近年は少子化により、全国的に学校の数は減少傾向にあります。鏡野町域における小学校の始まりはどのような様子だったのでしょうか。

明治五年（一八七二）に学制が頒布され、新しい教育体系と学校制度が始まると、江戸時代までの寺子屋や私塾に代わり近代の学校が設立されることになりました。

町域で最も早く設立された小学

（当時は「小学校」ではなく「小学」）は、明治五年八月三日に古川村の宝性寺に開校した「六々品小学」だと言われています。当時、鏡野町域が属していた北条県では、県内を三九の行政区に分けており、現在の芳野・郷地区、津山市域の二宮・院庄・神戸・戸島は第三六区にあたるのですが、校名の由来はこの「三六区」の三六をかけ算のように「六々」と

表し、「区」の旧字である「區」を「」と「品」に解体したもので、第三六区の学校であることを表現したユーモアのある校名となりました。しかし、この学校は二年ほどで閉校となったようです。

その後、各地区に設立された最初の小学は表のとおりです。ただ、開校当時は校舎を新築したものばかりではなく、民家や寺院の建物を仮校舎とした学校も多くありました。校名は、中国の古典等の中から学問を学ぶ所にふさわしい語句を選んでいきます。各村に存在しないのは、数ヶ村でまとまって設立しているためで、当時地域の就学督励や学校の設立・保護を行う学区取締

なのですが、上齋原から黒木までは二四キも離れているため、村内での学校の設立を願ったものの聞き届けられず、再三の要望により明治九年（一八七六）、奥津川西村にある及泉小学の支校として学校を設立することが許可され、翌年一月一日に設立されました。そして明治十三年（一八八〇）、源泉小学として独立させるため、県令（北条県は明治九年に岡山県に合併）あてに「学区分裂願」を提出し、同年十一月九日これが許可され、悲願であった村内の学校設立が成就しました。源泉小学の設立年が他校より遅いのはこうした背景があったためです。

ただ、学校が設立されてすべての子供達が就学したかといえ、そうではなく、明治十三年の郡内の就学率は六七・八七%だったようで、全国平均の四一・一%よりは高いのですが、学校からの距離が遠くて通学困難だったり、学業より家の農作業を優先するなど様々な事情があったことがうかがわれます。小学生の就学率が一〇〇%に近くなるのは、日露戦争後、明治四〇年（一九〇七）頃のことです。

町内の初期の小学

校名	所在地	設立年月日
盈進小学	薪森原村	明治7年8月2日
千之小学	古川村	明治7年8月3日
自成小学	円宗寺村	明治7年8月29日
切磋小学	土居村	明治7年12月17日
琢磨小学	塚谷村	明治8年
自近小学	中谷村	明治7年12月10日
成脩小学	沢田村	明治7年11月10日
不休小学	香々美中村	明治7年9月4日
誠之小学	真経村	明治7年11月8日
章明小学	越畑村	明治8年
自勵小学	久田下原村	明治7年5月
近知小学	黒木村	明治7年8月27日
誠憲小学	井坂村	明治8年
擇善小学	羽出村	明治8年4月8日
及泉小学	奥津川西村	明治8年
源泉小学	上齋原村	明治13年11月9日
収養小学	富西谷村	明治7年8月
修養小学	楠村	明治7年12月

という役割を務めていた香々美村の中島衛が、郡役所の郡長に送った書類に「山間部では学区内の人数が少なく、学校維持の資金に困る」と書かれているように、学校運営にかかる資金繰りには苦労しており、一村で学校運営を維持することは困難だったという事情があったようです。

しかし上齋原村では、明治六年に村内の児童を黒木村の小学へ登校させるよう県からの指導があつ

参考：『鏡野町史』『奥津町史』『上齋原村史』『富

村史』『芳野校史』

鏡野町教育委員会 生涯学習課 日下

電話（0868）54-7733